

科目名	中国文学講読Ⅲ		期間	前期
担当教員	☆上原 尉暢	単位数	2 単位	配当年次
				3年
テーマ	古典漢文の読解能力を向上させ、同時に古典漢文を生み出した古代中国の社会的・文化的背景に対する知識を深めてもらいたい。			
到達目標	訓点付き漢文はもちろん、最終的には訓点のない白文を、工具書を参照しながら一通り読解できるようにする。			
授業概要	『文選』を読む：梁の昭明太子蕭統の撰になる『文選』は、中国中世を代表するアンソロジーであり、日本の文学にも大きな影響を与えた。本授業では、この『文選』の詩作品を対象とし、その関連資料の読解を通して、作品の魅力を味わう。 授業内に関連プリントを配付し、それを使って輪番形式で読解を進めていく。			
授業内容	1.『文選』の概要 2.漢代の詩歌作品の読解 3.漢代の詩歌作品の読解 4.「古詩十九首」(『文選』巻二十九)の読解 5.「古詩十九首」(『文選』巻二十九)の読解 6.「古詩十九首」(『文選』巻二十九)の読解 7.曹氏父子(曹操・曹丕・曹植)作品の読解 8.曹氏父子(曹操・曹丕・曹植)作品の読解 9.曹氏父子(曹操・曹丕・曹植)作品の読解 10.建安七子(王粲・劉楨等)作品の読解 11.建安七子(王粲・劉楨等)作品の読解 12.建安七子(王粲・劉楨等)作品の読解 13.阮籍作品の読解 14.阮籍作品の読解 15.ケイ康作品の読解			
事前・事後学習	輪番形式で行い、各自の解釈を発表してもらうため、辞書を用いた予習が必須である。また授業の結果をまとめたレポートを課す場合もある。			
評価方法・基準	授業の予習・読解の習熟度などを基準にして評価する。したがって出席をすることが重要。			
履修上の注意事項等	授業に辞書は必ず携帯すること。 辞書としては『全訳漢辞海』(三省堂)・『新字源』(角川書店)を推薦する。漢文法の参考書としては、小川環樹・西田太一郎『漢文入門』(岩波書店)、二畳庵主人『漢文法基礎』(講談社学術文庫)等を参照すること。			
テキスト				
参考書				

聴講の可否： ×